

研究区分	教員特別研究推進 独創・先進的研究
------	-------------------

研究テーマ	近代インド宗教史研究と比較文化教育への新聞データベース活用 ——「裾野のDH」の試み (2)				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	富澤 かな
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	富澤 かな

講演題目	近代インド宗教史研究と比較文化教育への新聞データベース活用
------	-------------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

本研究は、2021 年度に続き、新聞データベースの活用により近代インドの宗教概念の展開を分析するとともに、日本語新聞データベースの教育活用も進めることで、万人に開かれたデジタル・ヒューマニティーズ (DH) の可能性を考え、「DH の裾野」の拡大を目指してきた。現在 DH の研究は進展しつつあるが、理解・活用できる研究者は限られており、新たなデジタル・ディヴァイドが生じている。高度な DH の進展は重要だが、同時に、特殊な知識がなくともデジタル技術が活かされる局面を増やすこと、つまり「DH の裾野」を広げることも、さらに重視されるべきである。

そこで本研究では、新聞データベースの研究・教育利用可能性に着目してきた。複雑なプログラムによる解析や可視化ができずとも、データベースの有効活用ならば、ほぼすべての研究者に開かれた DH の入口となると期待できる。しかし現在、データベースの有効な活用方法は必ずしも研究・共有されておらず、そして有用なデータベースの利用権を持つ研究環境は、通常の紙資料と異なり、一部の研究者にしか開かれていない。特に現在、本学では朝日新聞クロスサーチ (旧・聞蔵) の通常契約が失われ、国際関係学部の有志教員や研究センターの協力や、後援会寄付金で買い支えている状態である。2022 年度も前年度に続き、本予算から一定額を支出し、アカウント追加に協力することができた。アカウント数が増えた後、代表者が担当する学部授業、「比較文化特殊研究 B」と「比較文化入門Ⅲ」で、朝日新聞クロスサーチを用いて DB でしか得られない情報を探するというテーマを扱った。その結果、たとえば「生活習慣病関連語彙数の推移」、「韓国関連報道の件数の推移と視点の変化」、「イクメン」という語彙の出現と利用数の推移、「南極探検を大きな契機とする「ペンギン」の扱いの長期にわたる変化」など、極めて多様な視点による興味深い成果が示された。DB 利用により、新聞という情報源を、質的データに加え、量的データのソースとしても活用できること、加えて、「読みたい記事を探す」使い方をこえて、新たな問いや課題を発見するツールとしても DB を活用できることを、学生自らが発見・実践したもので、貴重な成果を蓄積できたと考えている。

代表者自身の近代インド宗教史研究においては、今年度末になってようやく、東京大学でのデータベース調査が可能な状況となり、3 回の調査出張を行うことができた。これまで主に Times of India 紙 (1838-2010*) のみを対象に、10 年単位で重要語彙の推移を分析してきたが、今回新たに、一部の時代について South Asian Newspapers (1864-1922) のデータと対照させつつ、1 年単位の推移を見る作業を進めることができた。今後さらに詳細な分析を行った上で、論文にまとめる予定である。